

普遍ニュースレター

Newsletter from Center for General Education, Chiba University

Design : CHIHARA Kazuhiko

2009.06 No.03

“普遍ニュースレター”は、普遍教育センターの活動を中心に
普遍教育・大学教育の動向に関する情報を定期的に紹介していきます。

普遍教育センター長 挨拶



平成18年に開設された普遍教育センターは、今年で4年目を迎えました。それに伴い、これまで1名であった副センター長を2名とし、その機能の十全な発揮とそれに伴う各部局とは異なる複雑な問題の解決を目指しています。このような新体制の下、普遍教育センターは「千葉大学の目指すところー重点課題2009ー」をうけ、平成21年度、次の5項目を目標の中核に位置づけ、始動しております。5項目とは、①全学出動体制による普遍教育提供の実質化、② コミュニケーションリテラシー教育の充実、③ 教養コア科目WGの成果の具現化、④化学基礎実験のカリキュラムの充実と実験環境の整備、⑤テーマゼミの充実と拡大です。

また、普遍教育センターは、これまで以上に各部局の先生方と直接、お目にかかり、普遍教育への理解を深めていただくとともに各部局の要望等を理解することを通して、普遍教育科目、全学共通専門基礎科目の質維持向上、安定供給を目指したいと考えております。豊かで質の高い普遍教育の享受は、苦しい受験を乗り越え、総合大学に入学した学生の特権です。そして、学生のこの権利を保障し、普遍教育に連動する専門教育の目標を高次の水準で達成できる学生を育てるためには、全部局の先生方の普遍教育に対する理解と協力が必須です。

今年度も、知恵を出し合い、学習を重ね、努力を累積して参りますので、どうぞよろしく願い致します。

普遍教育センター長 舟島なをみ

新入生の高校での履修科目調査報告

今年度も「人文・社会科学系、自然科学系の科目に関するアンケート」（新入生が高校でどのような科目を履修してきたか等）の調査を行いました。お陰様を持ちまして約92%もの学生から回答を得ております。ご協力を頂きました先生方、事務職員の方々に感謝いたしております。

さて、この集計が出来あがりましてので報告いたします。なお5月19日の普遍教育委員会にて報告させて頂きご意見を頂戴いたしました。各学部ごとの詳細なデータは同委員会での報告に有りますので、ここでは文系学部と理系学部、医薬系学部に大まかに分けご報告させていただきます。なお前述のデータは末尾に記されております普遍教育センターのホームページにも掲載されておりますので、講義等で学生の履修動向を参考にしたい先生方は是非ご覧頂ければと思っております。本調査も平成16年度から始まり、現在の形になったのは平成18年度からです。途中履修基準の改定もあり大学新入生の学力も大きく変化したものと思われま。この中で大学の初年級の教養教育、基礎教育をどのよ

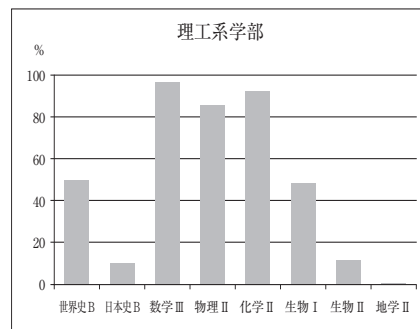
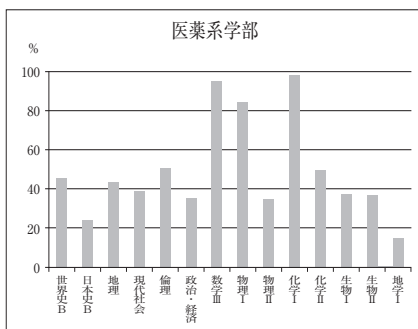
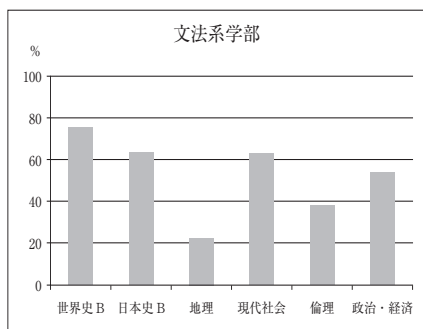
うに組み立てたら良いのか、模索する一つの方策でもあったと考えています。また現在履修基準が改定され様としていますが、これらのデータが今後の千葉大学教育カリキュラムの作成に当たり参考になることを願っています。

(松田 哲)

普遍教育センターホームページ <http://fkc.chiba-u.jp>

普遍教育における moodle の試験的導入について

普遍教育センターではこの4月より、インターネット上で授業用のWebページを作るためのeラーニング・ソフト=moodleを導入し、試験的な運用を開始しました。利用を希望される先生には普遍教育センター戦略連携室にてコース（各授業に対応したwebページ）を提供していますが、現在既に40近いコースが立てられ、それぞれの授業形態に対応した様々な利用の試みが開始されています。このmoodleというツールを利用することにより、たとえば、ハンドアウトやパワーポイントの資料を事前にダウンロードさせて閲覧させておくこと、あるいは、web上でレポー



トの提出、アンケートや小テストの実施、他のweb資源へのリンクなど、授業時間以外における予習・復習の指示や情報交換が可能になります。戦略連携室にご連絡いただければこれからでもコースを用意しますので、まずはmoodleを「いじって」いろいろな使用法を試みてください。

なお、普遍教育センターでも、総合メディア基盤センターの協力を仰ぎながら、より利用しやすいシステムの整備に向けて改善に努めています。7月・9月には本年度前期における改善結果、ならびに使用例の紹介と、後期からの授業における使用に向けた講習会を開催する予定です。是非とも授業を補完するコミュニケーションツールとしてmoodleをご利用ください。(山田 賢)

連絡先：普遍教育センター戦略連携室

senryaku-renkei@office.chiba-u.jp

普遍教育センターから

❖ 普遍教育マニュアルを刊行

普遍教育センターでは、普遍教育への理解を深めていただき、全学出動体制のもと、普遍教育をさらに充実していくことを目指して、普遍教育マニュアルを刊行しました。マニュアルは普遍教育科目をご担当いただく先生方に配布させていただきます。今後、2年ごとに改定し、教育方法

を中心に内容を充実していく予定です。マニュアルに対して、ご意見、ご要望があれば、普遍教育センターまでご意見をお寄せください。

❖ センターの活動

普遍教育センターでは、新年度に向けて、次の行事を開催しました。今年度新たに実施したのが、普遍教育科目を担当するTAに対する研修会と新入生に対するガイダンス(「普遍教育って何?」)です。こうした催しについては、可能な限り、出席者の意見を伺い、また反省会を通してより良いものしていくよう努めています。行事へのご要望、ご提案があれば、普遍教育センターまでご意見をお寄せください。

2009年3月31日	ガイダンス担当教員への説明会
4月3日	TA研修会
4月3日、9日	新任教員研修会
4月10日(2回)	普遍教育センターガイダンス「普遍教育って何?」

※ 前号で、昨年開催した普遍教育シンポジウムの報告を掲載するとお知らせしましたが、紙面の都合上、割愛させていただきました。同報告は、今年度刊行予定の「普遍センター活動資料集」(隔年刊行)に掲載する予定ですので、そちらをご覧くださいませようお願いいたします。

言語教育センターより 一使える言語の教育を目指して

本年4月より言語教育センター長に併任となりましたが、ミクロ経済学・数理経済学を本業としており、特に、馴染み深い実数体系を拡張、包摂する「超準解析」という数学で経済現象を分析して、消費者・企業といった経済主体の市場競争力とか市場均衡の成立可能性及び厚生評価を研究してきました。

私は、広くは数学も含めた思考言語への関心、より狭義には、1976年にフルブライト大学院留学生としてジョーンズ・ホプキンス大学に留学以来、同大学で博士号取得後はオハイオ州立大学で研究・教育に従事するなかで、英語での研究報告、論文執筆、講義といった具合に、思考形成、伝達手段としての言語と深い関わりをもって参りました。

ところで、大学での言語教育には何が求められているのでしょうか。この点に関して、私は次の2方向の重要性を強調したいと思います。

- (1) 「文法的には正しくとも、そうは言わない」を克服すること。1例を挙げれば、回送電車の字幕として、日本で散見します“Not in Service,” “Out of Service,” “Dead-Headed” のどれも文法的には正しそうですが、どれが英語の慣用として「正しい」のかを身に着けてゆくということです。
- (2) 母国語、外国語の両方で、明解ゆえに説得力のある論理構成ができるようになること。この点は、私が1973年の学部卒業当時に日本人で米国Ph. D. 第1号の都留重人一橋大学学長からご経験談として伺いました。私自身、オハイオで教鞭を執り始めてから数年後に、ホプキンスの指導教授から、「論文が、1, 2, 3, …, a, b, c, …と、自然に流れるようになってきた。」とお褒めを頂き、指導で先生を煩わせた博士論文の論理構成が「1, a, 2, b, c, 3, …」であったことを恥じ入ったものでした。

卒業後の就職とか大学院進学への貢献度の観点からは、言語教育は専門教育に勝るとも劣らない付加価値を提供しているというのが、私の持論です。さらに、説得的な論文作成、プレゼンテーションに成功するためにも、上述の(1)、(2)を実現してゆくことが最重要と考えていますので、今後、センターの同僚の先生方と教育内容・方法に一層の工夫を、さらには、学部・研究科との協働体制の構築を図ってゆきたいと考えています。

言語教育センター長 野村芳正

❖ 普遍ニュースレター No.3 2009年6月発行 ❖

発行・編集：千葉大学 普遍教育センター

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 Tel：043-290-3609 (普遍教育課)

E-mail: fuhen-info@office.chiba-u.jp URL: http://fkc.chiba-u.jp/